

□ 事業報告 □

「共創プラットフォーム事業化研究会」 終了報告

埋蔵知財の事業化は成らず

2 年間の知見と人脈・新規事業開拓へ役立てよう

「共創プラットフォーム事業化研究会」は、2014年10月NPO法人シビルNPO連携プラットフォーム(CNCP)をプラットフォームとして立ちあげられた研究会です。担当責任者は、本研究会を提案したCNCP会員のNPO法人シビルサポートネットワークで、建設産業では初のNPOをプラットフォームとした新規事業の創設をめざすものです。

当初、本研究会（フェーズⅠ）は企業の埋蔵知財の事業化の可能性を検討しましたが、やはり埋蔵知財からだけでは新規事業の立ち上げは難しいとの結論に至りました。

そこで、今年度（フェーズⅡ）は「事業化のコツおよび手法を学ぶ、と共に具体的な事業計画書の作成を試みる」を取り組みの目標として活動することになり、昨年10月～今年7月にわたって研究会活動をしてきました。おもな取り組みは下記の通りです。

(1) 共有価値の創造（CSV）の学習

注

：企業のCSRを更に進化させ、社会問題の解決と企業利益の創出の両立が企業の新たなビジネス機会をもたらすものとしてCSVが定義されています。

(2) インフラ維持・更新における社会的課題の検討

(3) セオリーオブチェンジの学習

注：事業化のアプローチを大別すると①既存のやり方で社会的課題を解決する②今までになかったアイデアで社会的課題を解決する③考え方そのものを変えていく。セオリーオブチェンジとは③の取り組みです。具体的な事例を示すと、ホームレスの自立支援として始まった「ビッグイシュー」(The Big Issue)です。単にホームレスにお金で支援するのではなく雑誌を作り、ホームレスがそれを路上で販売する。それによって彼らは収入を得るという好循環を作り出すモデルです。

(4) 革新的なビジネスモデルを検討

(5) ビジネスモデルに関わる関連知財の調査

(6) ビジネスモデルに基づいた具体的な事業計画書の作成

(7) 異業種との事業化に関する意見交換会

フェーズⅠ・フェーズⅡの2カ年にわたって中央大学のビジネススクール露木教授に研究のご指導をいただきました。(1)共有価値の創造（CSV）の学習では我が国では先駆的に取り組んでいる野

村総研究所の西尾紀一氏を講師にお招きしました。(3)セオリーオブチェンジの学習では遠路神戸から実績のあるNPO法人しゃらくの小嶋新氏を講師にお招きしました。

(4)革新的なビジネスモデルを作成するに当たってはアイ・エス・エスグループ代表の中村裕司氏を講師としてお招きしてご指導を頂きました。また、(7)異業種との事業化に関する意見交換会では露木先生の取り計らいで大学教員、経営コンサルタント、ベンチャー起業家、ビジネススクールのOB、学生など7名の方々と貴重な意見交換が出来ました。

研究会メンバーは企業の要職の方ばかりでしたが全員がほとんど皆勤に近い出席でした。

本研究会の初期の目的であった埋蔵知財の事業化の取り組みには至りませんでした。参加メンバーの総括を拝見すると本研究会は今後の各企業が取り組む脱請負の中で新規事業の組み立てに役立てる知見と人脈が得られたものと確信しております。